

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	146	工芸感性価値創造人材育成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ			
担当部課名	商工労働部ものづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	本県工芸産業の中核を担う工芸産地組合の経営を高度化し、工芸産業の振興と魅力ある雇用の場を創出する支援を行う。工芸事業者における工芸製品の高度化、多様化を促進することにより、本県の工芸産業の振興を図ることを目的とする。具体的には、伝統的な工芸資源(図案・技法など)を活用し、現代ニーズに即した、新しい感性価値による工芸製品を創造する人材の育成を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】			27年度	27年度(繰越)	28年度	28年度(繰越)	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	25,388	—	39,228	—	15,950
		(b) 予算現額	25,388	—	39,228	—	15,950
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		25,388	—	39,228	—	15,950
	B. 執行済額		21,648	—	34,850	—	14,508
	うち交付金充当額		17,318	—	27,880	—	11,606
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		85.3%	—	88.8%	—	91.0%
予算の状況の説明		<p>・予算額は人材育成に係る委託料、旅費等事務費等を計上したものである。</p> <p>・執行率は91%であり、執行残額は委託業務の先進地研修旅費等の効率化によるものである。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	工芸感性価値創出研修の実施による人材育成(感性価値バンクデータを整備する)	目標		12名(300点)	12名(300点)	12名(300点)	
		実績		12名(300点)	12名(300点)	12名(300点)	
		目標					
	実績						
達成状況説明	<p>・人材育成については、3名で構成された4グループを受け入れ、12名がカリキュラムを修了した。また、工芸に関する事例、素材などのデジタルデータによる感性価値バンクデータについて300点を整備した。共に当初目標を達成している。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(25年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(29年度)
	伝統工芸品からの新たな感性価値を有する商品開発に資する人材育成、および感性価値バンクデータの整備	目標		12名(300点)	12名(300点)	12名(300点)	36名/900点
		実績		12名(300点)	12名(300点)	12名(300点)	36名/900点
		目標					
		実績					
進捗状況説明	<p>・成果目標は人材育成及び感性価値データ整備共に達成している。</p> <p>・育成した工芸事業者は当初計画のカリキュラムを履修し、終了後の自走化(次世代のニーズに対応する感性価値を活かした新製品の開発)の推進が図られる。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①人材育成の実施にあたり、時間配分や実施の方法などに起因すると考えられる受講生の習熟度の違いがあり、目指す指標(感性価値を活かした新製品の開発)を達成するために、学びを更に効果的に行う為のカリキュラムの見直しが求められる。</p> <p>②ニーズの多様化、SNSの普及、生活者の価値感の変化など、工芸産業を取り巻く外部環境の変化を考慮する必要がある。</p>	<p>①学びを更に効果的に行う為の新しい視点として、受講生がより能動的に学習するアクティブラーニング型のカリキュラムへと改善する。</p> <p>②外部環境の変化に対応すべく、工芸が持つ感性価値について、工芸事業者自身が発案、見える化(言葉、文字)し、これを発信する総合力を習得をさせる人材育成を行っていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①改善余地の検証の考え方を元に、これまで実施してきた目標に対し、更にブラッシュアップする事業立案し、実施する。具体的には指導内容、対象者の別により、自己プロデュース力(自分の強みを知り、企画、発信する力)、製品開発力を向上させる「①工芸事業企画コース」、二次加工技術(縫製・金細工)を向上させる「②伝統工芸活用技術コース」の2つを実施する。</p> <p>②「主体的、対話的による深い学び」をキーワードとし、学校教育現場で広く導入されている「アクティブラーニング」の手法を導入実施する。また、人材育成で活用する工芸ソフト情報について、工芸振興センターにて「教材データ」として整備、蓄積を行う。</p>		

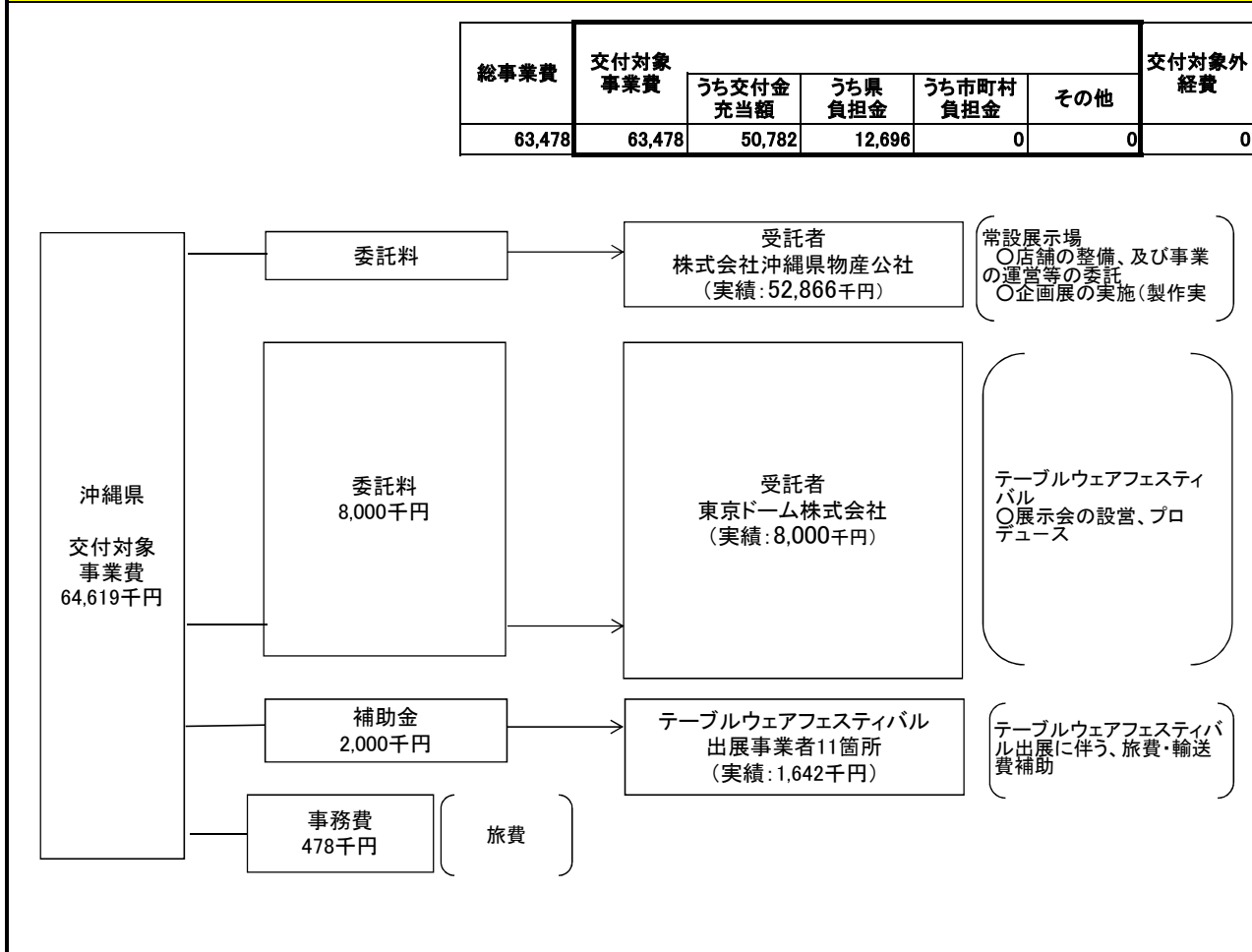
資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
	総事業費	交付対象事業費				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
	14,508	14,508	11,606	2,902	0	0
<p>沖縄県 交付対象事業費 14,508千円 交付金充当額 11,606千円</p> <p>(委託料) 14,369千円</p> <p>(事務費) 139千円</p> <p>特定非営利活動法人 沖縄県工芸産業協働センター [工芸感性価値創造人材育成事業]</p>						
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目		評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。		<p>○委託先は企画競争で事業計画、組織実績等を勘案した上で選定。委託経費の選定方法は妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は事業内容に見合ったものであり、妥当と考える。</p>		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	147	工芸・ファッション産業宣伝普及事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ		
担当部課名	商工労働部ものづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成 26 ~ 30 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	首都圏に高価格帯の工芸品の常設展示・販売拠点を設置し、本県が誇る優れた伝統工芸の展示・販売を行う。また、工芸職人の派遣による製作実演や製作体験等の企画展を開催することで本県工芸品の宣伝普及を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		27年度	27年度(繰越)	28年度	28年度(繰越)	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	56,110	0	67,020	0	63,478
		(b) 予算現額	56,110	0	67,020	0	63,478
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	56,110	0	67,020	0	63,478
	B. 執行済額		53,406	0	64,619	0	62,939
	うち交付金充当額		42,724	0	51,694	0	50,351
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		95.2%	#DIV/0!	96.4%	#DIV/0!	99.2%
予算の状況の説明		<p>・予算額は、常設展示場の運営等及び展示会出展に係る委託料、展示会出展に係る旅費補助金、旅費等を計上したものの。</p> <p>・執行率は99.2%であり、委託料の確定減(134千円)及び旅費に係る補助金の確定減(358千円)。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	①製作実演・体験イベントの開催	目標	4回	6回	6回	6回	
		実績	4回	9回	11回	11回	
	②常設展示・販売場の運営	目標	常設展示・販売場の運営	常設展示・販売場の運営	常設展示・販売場の運営	常設展示・販売場の運営	
		実績	常設展示・販売場の運営	常設展示・販売場の運営	常設展示・販売場の運営	常設展示・販売場の運営	
	③展示会への出展	目標			1回	1回	
実績				1回	4回		
達成状況説明	<p>・常設展示販売場は沖縄県物産公社へ業務委託で実施している。</p> <p>・平成29年度は製作実演・体験等の企画展を11回実施。(ウーヅ染め、織物展、三線祭り、琉球ガラス、やちむん展等)</p> <p>・テーブルウェアフェスティバル(東京ドーム)に出展。</p> <p>・活動実績は、目標どおり常設展示場を設置運営し、製作実演・制作体験等の企画展を数多く実施したことから達成とする。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(27年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	取材メディア数	目標	10件	10件	10件	10件	10件
		実績	12件	12件	8件	14件	
	商談件数(小売・卸等)	目標	3件	3件	3件	3件	3件
		実績	4件	4件	5件	3件	
	来場者数	目標	40,000人	40,000人	45,000人	50,000人	60,000人
		実績	50,356人	50,356人	56,048人	65,598人	
進捗状況説明	<p>・取材メディア数については、目標10件に対して実績は14件と目標を達成している。</p> <p>・商談件数については、目標3件に対して実績は3件と目標を達成している。</p> <p>・来場者数は、目標50,000人に対して、実績は65,598人と目標を達成している。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・来場者を増やし認知度向上を図るために、展示販売等による店舗運営のほかに、伝統工芸等を活用した企画の工夫が必要となる。</p>	<p>・工芸産地と連携を強化しつつ、来場者が増えるような魅力的な展示企画ができるよう、受託社内に工芸への造形を深めるスタッフ教育体制の構築や、県内各産地や県外工芸品に係る情報について、県から情報提供できるよう受託社内に工芸事業担当バイヤーの配置を図る。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・リピーターをふやすような展示場づくりや、工芸品の魅力を伝えられるような展示を演出・工夫するため、県から情報提供できるよう受託社内に工芸事業担当バイヤーの配置し、さまざまなメディアに取り上げられるようイベント情報や企画を提案していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は平成26年度に公募型プロポーザルにより選定し常設展の運営を続け、平成29年度は事業評価検討委員会により継続審査(適合性、計画性、継続性、将来性)を行い選定した。</p> <p>○費目、用途については、事業目的達成の観点から必要な物か等について額の確定時において支出等に関する書類により確認。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	148	工芸縫製・金細工技術者養成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ			
担当部署	商工労働部工芸振興センター	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針該当箇所			
事業内容	本県の工芸品を活用した工芸縫製製品、金細工製品の製造が出来る技術者を養成し工芸産業の振興を図るため、県外の高度技術者を招へいし、伝統工芸品を現代用途へと二次加工するための実践的な講習会等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		27年度	27年度(繰越)	28年度	28年度(繰越)	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,598	0	16,517	0	6,853
		(b) 予算現額	16,598	0	16,517	0	6,853
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	16,598	0	16,517	0	6,853
	B. 執行済額		16,276	0	16,049	0	5,092
	うち交付金充当額		12,946	0	12,835	0	4,072
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.1%	#DIV/0!	97.2%	#DIV/0!	74.3%
予算の状況の説明		・技術調査を引率する職員数の減および県外講師旅費の格安航空券利用などにより、旅費の大幅な減による執行残が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	工芸縫製研修(手縫い・ミシン) 金細工研修(彫金・鍍金・鍍金・石留め)	目標	各60日	各60日	各60日	-	
		実績	各60日	各60日	各60日	-	
	工芸縫製、金細工技術者を対象に技術調査(素材、道工具、デザインなどの調査)の実施。	目標	4回	4回	4回	4回	
		実績	4回(各分野2回ずつ)	4回(各分野2回ずつ)	4回(各分野2回ずつ)	4回(各分野2回ずつ)	
	技術資料の取りまとめ、技術マニュアルの作成	目標	-	金細工マニュアル資料整備	工芸縫製マニュアル資料整備	マニュアル完成	
		実績	-	資料整備済	資料整備済	マニュアル完成済	
	技術講習会	目標	4回	4回	4回	7回	
		実績	5回	4回	4回	7回	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・工芸縫製研修、および金細工研修は本年度設定していない。 ・コーディネーター引率のもと訪問先にて素材、道工具、デザインなどの調査を行った。 ・主に昨年度の研修終了生等を対象とした講習会を実施し、応用技術や更なる高度な技術項目について指導した。 ・マニュアル完成に向けて技術的な知見を蓄積し、素材・道工具類に関する情報収集・資料整備を行った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値(29年度)
	工芸二次加工技術者養成:12名(工芸縫製技術者:6名、金細工技術者6名)	目標		工芸縫製6人 金細工6人 計12人	工芸縫製6人 金細工6人 計12人	-	60人
		実績		工芸縫製5人 金細工6人 計11人	工芸縫製5人 金細工6人 計11人	-	58人
	技術調査による原材料や道工具などの仕入れ先開拓および県外技術者との人的ネットワークの構築。	目標		調査実施	調査実施	調査実施	-
		実績		調査済	調査済	調査済	-
	工芸縫製技術マニュアルの作成	目標		金細工マニュアル資料整備	工芸縫製マニュアル資料整備	マニュアル資料完成	-
		実績		金細工マニュアル資料整備	工芸縫製マニュアル資料整備	マニュアル資料完成済	-
	進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・工芸縫製研修、および金細工研修は本年度設定していない。 ・昨年度の研修終了生を対象とした技術調査実施では、県外での展示会や工房視察、道工具や原材料の仕入れ先探索のため、新たな視察先を交えながら実施した。 ・2分野のマニュアル作成の最終作業を行った。 				

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)	
取組の検証	・多種少量への対応、生産技術の精査、コスト削減など、二次加工に求められる高度なニーズが見受けられることから、これらのニーズに対応していく必要がある。	・生活者のニーズ、協業する伝統工芸事業者のニーズを踏まえ、多様な製品を生み出す企画力の獲得や、高付加価値を目指す技術獲得を行っていく。	
	今後の取り組み方針		
<p>・これまで育成してきた人材(研修修了者)に対し、フォローアップのための技術講習会を実施することで技術者の更なるスキルアップを促進し、工芸産業振興に資する更なる人材育成策を検証したブラッシュアップ事業を立案し実施する。</p>			

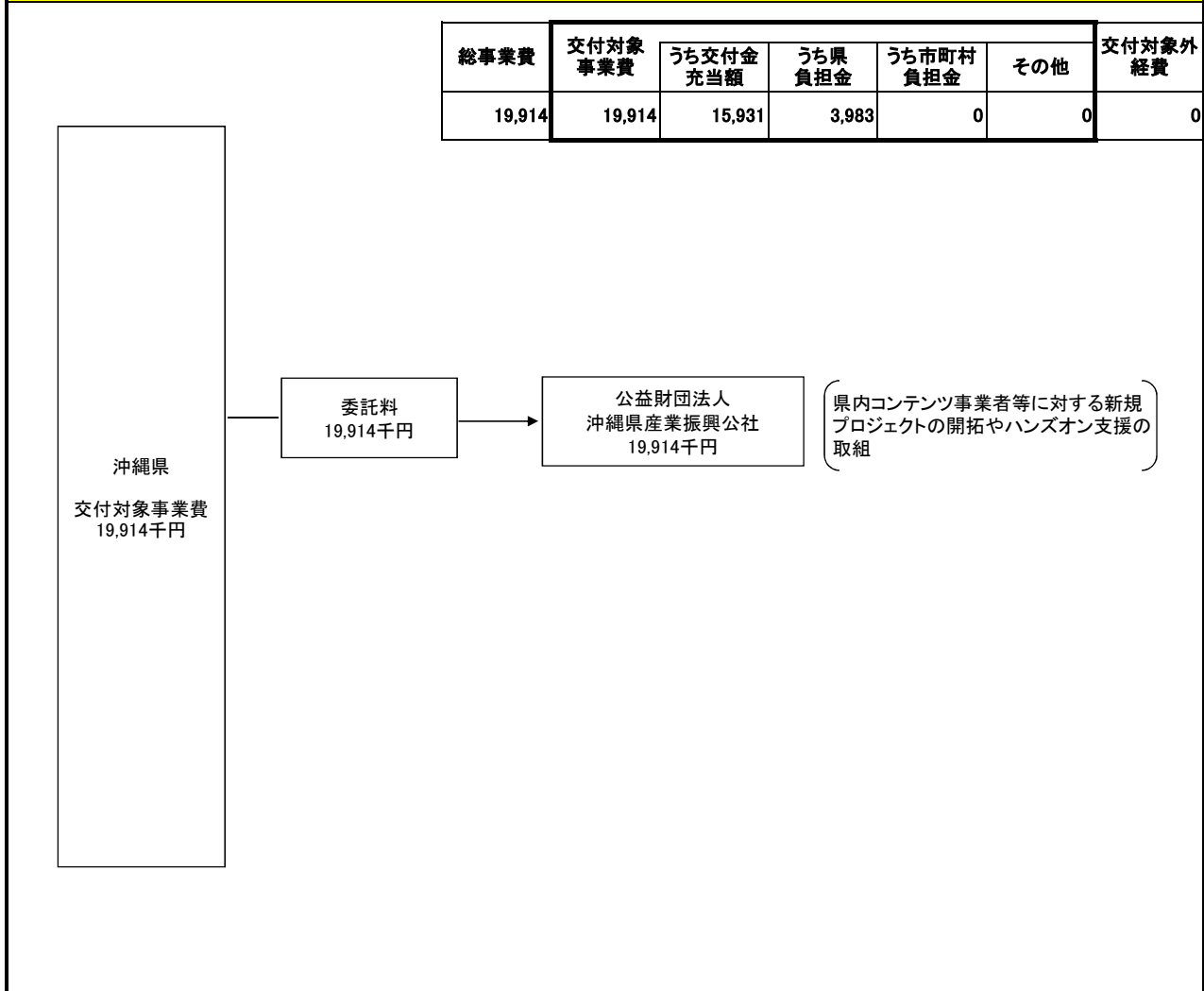
資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
5,092	5,092	4,072	1,020	0	0	0
<pre> graph LR A[沖縄県 交付対象事業費 5,092千円] --> B[事務費 5,092千円] B --> C[報償費 1,470千円] B --> D[旅費 3,217千円] B --> E[需用費、役務費、原材料費 405千円] C --- C1["(工芸縫製・金細工技術講習会講師への謝金)"] D --- D1["(県外講師および研修修了生の技術調査に係る費用弁償、講師との調整および技術調査に係る普通旅費)"] E --- E1["(講習会に使用する原材料費および消耗品費、通信運搬費)"] </pre>						
資金の流 れ、費目・ 使途の点 検評価	評価	点検項目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○調査、講習会に必要なものを精査し、適正に予算執行した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	207	沖縄文化等コンテンツ産業創出支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ウ			
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化コンテンツ産業の振興		
事業内容	沖縄の文化等を活用したコンテンツを創出し、県の新たな成長産業としてのコンテンツ産業を振興するため、制作プロジェクトに対して投資ファンドによる制作資金の供給を行うとともに、事業者に対して制作段階に応じたハンズオン支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		27年度	27年度(繰越)	28年度	28年度(繰越)	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	33,151	0	29,446	0	21,466
		(b) 予算現額	33,151	0	29,446	0	21,466
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	33,151	0	29,446	0	21,466
	執行状況	B. 執行済額	27,009	0	27,598	0	19,914
		うち交付金充当額	21,607	0	22,078	0	15,931
		C. 次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		81.5%	#DIV/0!	93.7%	#DIV/0!	92.8%
予算の状況の説明		・執行率は92.8%であり、主に委託料の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	出資案件の収益増に向けたハンズオン支援	目標	—	—	出資案件の収益増に向けたハンズオン支援	出資案件の収益増に向けたハンズオン支援	
		実績	—	—	出資案件の収益増に向けたハンズオン支援	出資案件の収益増に向けたハンズオン支援	
	【参考指標】 コンテンツ制作プロジェクト投資件数	目標	3件	3件	—	—	
		実績	5件	2件	—	—	
達成状況説明	<p>・平成29年度においては、ファンドの終期を意識し、既に出資した案件の価値を高めるためのハンズオン支援を行った。</p> <p>・映画・映像系(6件)、エンターテインメント系(1件)、ゲーム系(3件)の出資中の案件計10件に対して、各々の状況に応じた助言指導等を行った。(国内外での販路開拓機会の創出に向けた国際映像見本市への参加に係る助言指導など)</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	ファンド清算後も県内にて文化コンテンツを活用したビジネスを継続する出資先企業	目標	—	—	—	12社	—
		実績	—	—	—	11社	—
	【参考指標】 投資プロジェクト作品の完成リリース件数	目標	—	1件	1件	—	—
		実績	—	2件	1件	—	—
	進捗状況説明	<p>・これまでの出資案件のうち、ファンドが解散となった平成29年12月31日以降も文化コンテンツを活用したビジネスを継続している者は11社となり、成果目標は概ね達成した。</p>					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・市場環境の変化や競争が激しいコンテンツ産業においては、沖縄の文化資源への関心や活用のあり方についても、市場の動向に左右されることに留意する必要がある。</p>	<p>・県内外のコンテンツ関連事業者に対して、沖縄の文化資源を活用する取組についての認知度や関心の向上を図る。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・県内外のコンテンツ関連事業者に対して、沖縄の文化資源を活用する取組への意欲喚起に向けた広報等に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○投資ファンド設立当時から関わり、ファンド出資者でもあること、並びに管理運営のノウハウを有していることから沖縄県産業振興公社を委託先として随意契約を締結した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ハンズオン支援の取組状況及び投資状況から予算規模として適正な規模と考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	